

遺族「つらさは一生」

2014年
4月17日
中日新聞

浜松市の浜名湖で二〇一〇年に野外活動中のボートが転覆し、愛知県豊橋市章南中学校一年の西野花菜さん（当時二二）が亡くなった事故は、十八日で発生から四年を迎える。「先生たちは娘を守ってくれようとしたのか」。両親は悲しみが癒えず、業務上過失致死容疑に問われた当時の校長らへの疑念も消えない。

（豊橋総局・曾布川剛）

「おはよう」。父友章さん（五十）は毎朝、自宅居間の一角に置いた写真に語り掛ける。好きだったバイオリンや人形に囲まれ、写真の娘は笑っている。「花菜がそこにいるって感じる。でも立ち上がると、その空気はなくなってしまう」。遺骨を固めて作った手のひら大のプレートが遺影の横に

置かれている。いつでもそばにいられるようにお墓に遺骨を納めていない。「時がたっても、つらさは変わらない。一生です」

友章さんは、昨年三月に卒業した同級生ら三十人にメッセージや写真を寄せてもらい、花菜さんだけの卒業アルバムを九月に作った。「あの日の光景、あの日の苦痛、友達をうしなうことはとてもつらい」「高校生活にもなれてきたよ！いつまでも友達だからね」。

「娘を忘れないでいてくれてうれしい。でも、本当は…。同級生が立派に育っているのを見るのは、心が痛い」。母光美さんは、つらそうに本音を漏らす。

この四年、両親は真相解明や再発防止を願い、署名集めや市議会への請願、市を相手の訴訟などに追われた。二十余年勤めた会社を辞めた友章さんは豊橋市との和解、市長の公式な謝罪を経て、今年一月から再び、NPOで働き始めた。

「元校長らが不起訴になれば、出航を止めなかった判断が法的に正しかったことになる。危険を予知し回避できるのは、子どもたちを引率する先生ではないのか」。捜査に時間がかかってもいい。ただ、娘の死を無駄にしてほしくない。

浜名湖ボート事故あす4年



同級生に寄せてもらったメッセージや写真をまとめた「卒業アルバム」を見返す西野友章さん（愛知県豊橋市の自宅）



浜名湖ボート転覆事故 浜松市

北区の浜名湖で2010年6月18日、野外活動中だった章南中学の1年生18人と教諭2人が乗った手こぎボートが悪天候で操船不能になり、モーターボートでえい航中に転覆。全員が湖に投げ出され、ひっくり返った船体内側に閉じ込められた西野花菜さんが溺れて死亡した。

た。両親は12年5月、豊橋市などに損害賠償を求めて提訴。10月に和解が成立し、市長が両親に謝罪した。静岡県警は13年2月に業務上過失致死容疑で、章南中の校長や宿泊研修施設「静岡県立三ヶ日青年の家」の所長、静岡県社会教育課長（いずれも当時）ら6人を書類送検した。静岡地検が捜査している。

黙とうする生徒たち＝豊橋市老津町の章南中で

浜名湖ボート事故4年 豊橋・章南中

花菜さん胸に命学ぶ

浜松市の浜名湖で野外活動中のボートが転覆し、豊橋市章南中学校一年だった西野花菜さん（当時二）が亡くなった事故から四年を迎えた十八日、豊橋市のすべての小中学校で「豊橋・学校のちのちの日」の取り組みがあり、児童生徒らが命の大切さをあらためて考えた。

（曾布川剛）

章南中では授業開始前、命を考えながら過ごして放つ生徒会企画のバルーン柴田祥宏校長が教職員に「ださい」と語り掛け、全員「花菜さんのことを忘れず心に残し込む」「いっそ命を大切にしよう」などの思いを発表し、教室窓から風船を放った。兄妹愛を描いた映画の上映もあった。

その後の全校集会で、柴田校長は「今日は、学校の野外活動中に西野花菜さんの命を奪ってしまった日です。自分の命、周りの人の命を奪ってしまった日です。全員で風船四百個を空に

「いのちの日」は、事故の翌年から七十四の全小中学校で始まり、各校それぞれが独自の内容で取り組んでいる。

章南中では今年初めて保護者や地域住民にも公開。道徳の授業を見学した二年生の母親は「みんなの命を大切にすることを学び、一日一日を過ごしてほしい」と話した。

浜名湖ボート転覆事故 浜松市北区の浜名湖で2010年6月18日、野外活動中だった章南中学の1年生18人と教諭2人が乗った手こぎボートが悪天候で操船不能になり、モーターボートでえい航中に転覆。全員が湖に投げ出され、ひっくり返った船体の内側に閉じ込められた西野花菜さんが溺れて死亡した。

